根羽川漁業協同組合

調査団体名　：　根羽川漁業協同組合
設立年　：　昭和9年
団体URL　：　http://www.mis.janis.or.jp/~nebagawa_iwana/index.htm
活動拠点　：長野県内根羽川（矢作川源流）
取材日　：　2018年12月12日（9:15～12:15）

団体代表者名　：　大久保憲一
対応してくれた人の名前　：　副組合長　西尾竹司
（西尾竹司さんは山村再生担い手づくり事例集Ⅰ「根羽村猟友会」の対応者です）
調査員　：　髙橋伸夫　今村豊
レポート作成者　：　髙橋伸夫

活動内容

根羽川（矢作川支流）長野・愛知県境より上流部分の漁業資源管理。

1. アユ稚魚（600kg）、アマゴ稚魚10万尾（200kg）+春連休前5/3に成魚（100kg）合計300kgの放流。
2. 組合員（400軒）および一般遊漁者（年間延べ800名程度）の、漁法別アユ漁やアマゴなどの雑魚漁に対する入漁許可証の販売と監視。
3. 冷水病菌の侵入防止のため、放流魚や釣り人およびその漁具（長靴、竿、網から釣り針等にいたるまで）の監視と管理。野生生物等による病原菌の侵入防止対策。
4. カワウ・サギ類などによる食害防止対策。
5. 長野県及び矢作川流域の漁協との連携。
6. 全国で80以上の、アユ漁が主体の漁業組合（高知県だけで9ブロック21漁協が参加）が集まって実施している「清流めぐり利き鮎会」等への参加。
7. 特に山村体験における子供たちへの水の大切さ・渓流魚のお話や、魚の手づかみ指導のパイオニアである。

キャッチフレーズ

「下流域の方に清らかに澄んだきれいな源流の水を送り、その源流の水で育まれた渓流魚を皆さんに届けよう」

会のモットー（何を大切にしているか）

渓流魚という水資源を活用する立場から、源流のきれいな水を守る環境保全に留意している。

設立から現在に至るまで変化したこと

生息する全ての魚類が大きく減少している。その経緯として、かつては①大量に使用されていた農薬による影響が大きく、加えて②下流に建設された数多くの堰やダムの建設により、回遊魚は海との往復が完全に遮断された。2000年9月11～12日の③恵南豪雨による多量の土砂流出が、生息していた魚類の呼吸障害と、河床に堆積した土砂による生息環境の悪化によって魚類が減少したのである。また、回遊が不可能になった代替として放流しているアユに対しては、1996～7年頃から発生した④冷水病により、現在もその生息が脅かされ続けている。2000年代半ばから、以前は当地に生息していなかった⑤カワウやアオサギの飛来が始まり、放流魚や生息している魚への食害が多くなっている。

連携している団体・専門家・自治体など

矢作川流域では長野県の①根羽川漁協をはじめ近隣の②平谷漁協、岐阜県の③上矢作漁協、愛知県の④名倉漁協、⑤矢作漁協の5漁協と連携して定期的な情報交換や遊漁日等の設定を行っており、他に愛知県の⑥岡崎、⑦巴川、⑧乙川の3漁協とも連絡は取っている。放流魚の選定や購入手配は長野県と連携しており、遊漁料の設定も連携している。

流域圏の担い手づくりに関わる具体的な活動（例：小仕事づくり、地域資源の活用など）

漁協の活動に一致。その他、刈谷市・安城市に所在地のあるアイシングループや安城市との山村体験イベントにおいて、根羽川に生息する魚の生態や魚つかみのコツ、魚のさばき方や串刺しの方法、焼き方などをファミリーに指導している。

現在直面している課題

冷水病対策は、現時点では病原菌の侵入防止対策だけを行っており、決め手となる予防法は見つかっていない。
矢作川水系ではあるが、愛知県外ということで根羽川にはダム建設等による補償金は皆無である。事業収支の不足分を現在はふるさと納税などで補填しているが、今後はこの不足分を補う事業を行いたい。

今後やってみたいこと

今のところ漠然とした案であるが、環境や景観に影響を及ぼさず、来客に自然な形で楽しんでもらえる釣り堀ができれば、収支の不足分が補填できる。
根羽村ではアマゴの養殖を行っており、これは貴重な地域資源で絶対に存続させるべきだと思っている。こうした意味からも、アマゴを筆頭に渓流魚の釣り堀は面白いと考えている。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

根羽村森林組合職員であり、根羽村の渉外担当および情報収集担当でもある今村豊さんに全て一任。また現在根羽村では、地域資源を活かした村民一人ひとりの思想・技術・技能を次世代に伝えていく「田舎の先生」の構想があり、こうした「田舎の先生」が構成員となる「森と水源の里NEBA協議会」を平成30年3月に設立した。ここで、村民同士がそれぞれの得意技を活かした「体験プログラム」を創造し、これを多様に組み合わせることで、村民が主体となって外貨獲得を進めていく見込みである。水源の村として、水や魚という地域資源を最大限に活用し、村民同士・様々な立場の方々のご意見を参考にしてオリジナルの魅力的な体験プログラムを作ろうと活動を開始した。

チームオリジナルの質問

＜質問内容＞里山で生きるには、地域資源を活用する技術・技能が必要ですが、その点で西尾竹司さんは、スーパーマン並みに様々な素晴らしい技術・技能をお持ちです。そして、時間を自由に使って生きている「自遊人」の趣があります。どうしたら、そんな素敵な「生き方」ができるのでしょうか？

＜答え＞　それは、子供時代から身近な自然と触れ合い、親しんできた必然的な結果です。身の回りを取り巻く素晴らしい自然環境によって、自然に対する感性や身のこなしが養われ、そして自然を見つめ、観察する姿勢が身に付きました。こうしたことが身に染みてわかるので、安城市などから訪れる子供たちには、手を取って自然の魅力を伝え、自然と共に生きる素晴らしさをしっかりと伝えていきたいと願っています。

その他、伝えたいこと

西尾竹司さんのプロフィールと性格：

西尾竹司さんは、今では、息子さんに経営の主導権を渡されていますが、本業は(有)松尾自動車という自動車整備工場のオーナーです。村内に住まわれている方が所有されている自動車の車検や整備を手掛けて40年以上のキャリアがあり、その整備技術が優秀なことから、関係団体による表彰状をいくつも受賞されています。

また、若い頃には村内の野球チームに所属し、近隣の市町村対抗戦ではエースとして活躍し、何回も最優秀投手賞を受賞されています。

つまり、竹司さんはとても器用で腕が抜群の車の整備士であり、かつ、運動神経も抜群な人ということです。こんな竹司さんですが、さらに素晴らしいのは、人から頼まれたら断れないという性格です。人のために尽くすこと、人のことを思いやること、人に温かい視線を注ぐこと、地域の未来を考えること、そして、そのために行動を惜しまない人であるということです。結果的にとても多くの方の信頼を集め、人望がとても厚い方です。

地域を元気にするためには、根羽村で生まれ育った人の考え方と、根羽村で何かをしたい、根羽村で何かを実現したいと思う他所から来た人との融合が必要です。そんな時、お隣の村で生まれ、根羽村に移り住んで起業して、人望も厚く成功された竹司さんの生き方には、地域を元気にする多くのヒントに溢れています。

お問い合わせ先

住所・電話番号　〒395-0701長野県下伊那郡根羽村上町1713　　0265-49-2039

安城市の小学生に川や魚の魅力を伝えています

川に生息する魚のお話をしています

川に生息する魚を仕掛けで採取しています

川に生息する魚を見せています

手づかみされたアマゴを「串刺し」にしています

西尾竹司さんに活動内容を聞き取りしています